

MOBILE SUIT XM-X1
**CROSS BONE
GUNDAM X1**
"Ver.Ka"

SPECIFICATION / MODEL NUMBER : XM-X1 HEIGHT : 15.9m WEIGHT : 9.5t FULLY EQUIPPED WEIGHT : 24.8t GENERATOR OUTPUT : 5280kw
ARMAMENTS / VALCUN GUN ×2 / HEAT DAGGER ×2 / BEAM SABER ×2 / SCISSOR ANCHOR ×2 / BRAND MARKER ×2
ZAMBUSTER ×1 [BUSTER GUN ×1] [BEAM ZAMBER ×1] / ANTI BEAM COATING MANTLE ×1

Assignment: CROSSBONE VANGUARD

MOBILE SUIT XM-X1
**CROSSBONE
GUNDAM X1**
"Ver.Ka"

MG XM-X1 CROSS BONE GUNDAM X1 "Ver.Ka"

Instruction making staff

Produce/direction : KATOKI HAJIME
Edition : TAKAGI SUNAO(GUNDAM A)
Design : SAITO DAISUKE(DESIGNMAN)
Writing : TETSUYA KOBAYASHI
MAKOTO ISHI
Photo : HONDA KEIGO(ENTANIYA)
Coloring : MATSUMOTO TAKASHI
Marking : KONNO YUJI(JAM)



S.N.R.I. PROTO TYPE MOBILE SUIT
U.C.0133 JUPITER WAR

BANDAI 2006 MADE IN JAPAN ※パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。 ※写真の完成品は塗装してあります。 ©創通・サンライズ

0145936



XM-X1 CROSS BONE GUNDAM X1 "Ver.Ka"

Gundam models Designed and produced by Ka.



XM-X1 クロスボーンガンダム X1

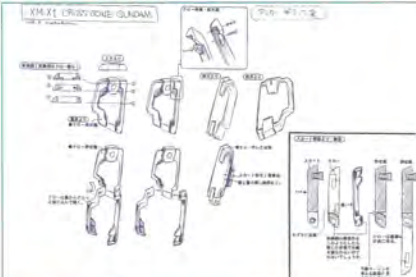
当初、コミックス用にデザインされたクロスボーンガンダムを、新たにMG「Ver.Ka」開発用としてリファインした画稿。マーキングもこのキット用に新規にデザインされている。



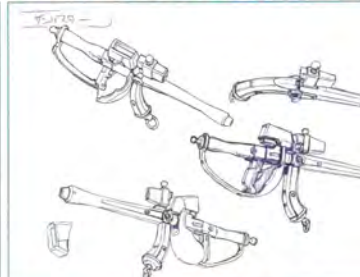
↑クロスボーンガンダムの特徴である、大きく張り出した顔部分が絶妙なバランスで描かれている。



↑脚部に配置されるヒート・ダガーの収納案。この画稿をもとに、キットではパーツ分割で収納形態を実現。



↑過去に例のない、フロントアーマーが展開するジッパー・アソナーのギミックは、詳細にわたって検討された。



↑モビルスーツの武装としては特異な形のザンバスターは、各部形状が判るように様々な角度でデザインが描かれた。

MGクロスボーンガンダムX1 "Ver.Ka"用開発画稿

クロスボーンガンダム「Ver.Ka」の最大の魅力となるのは、武器を中心としたギミックの数々。設定身長15.9mという、それまでのモビルスーツよりもひとまわり小型のサイズの機体が、コミック劇中で見せるケレン味あふれるアクションが魅力だが、そんな小さな機体に盛り込まれた武装を収納・展開させるべく、細部にわたってギミックが検討された。また、コミック版の印象を残しつつも、先に発売されたMGガンダムF91からの発展型としての説得力を重視したプロポーションバランスにも気が配られており、よりメカニカルな説得力を持たせている。



↑スクリー・ウェブの有無によって形状が異なるリアアーマー。ギミックも含めて形状の違いが確認できる。

Fを継ぐもの、クロスボーン

Interview ; Yuichi Hasegawa / Katoki Hajime

コミック『機動戦士クロスボーンガンダム』（角川書店:刊）に登場した主役モビルスーツ・クロスボーンガンダムX1（以下:X1）がマスターグレード（以下:MG）シリーズでプラモデル化された。ここではコミック作者である長谷川裕一氏とX1のデザインを手がけたカトキハジメ氏からのコメントを交えつつ、このX1と作品の魅力に迫ってみよう。

『機動戦士クロスボーンガンダム』とは、地球壊滅を目論む木星帝国に立ち向かう宇宙海賊たちの活躍を描いたコミックである。本作は『月刊少年エース』の創刊にあたって、ガンダムの生みの親である富野由悠季監督を原作に迎え、ガンダム関連作品でも既に高い評価を得ていた長谷川裕一氏がコミック化を担当、さらにMSデザインにカトキハジメ氏が参加するという、外伝的作品としては異例とも言える豪華な布陣で連載開始となった。通常、ビッグネームを原作に迎えると企画が硬直してしまうことも少なくないが、長谷川氏は「業界のトップと一緒にやるんだから遠慮してもしかたがない！」と富野監督原作ということに対してむしろ意気込んだという。実際長谷川氏が富野監督に提案して実現した要素は多い。

長谷川「若気の至りもあって遠慮せずに富野監督に意見をぶつけさせてもらったのですが、割と認めるところは認めていただいてスパッと落ち着いた感じでしたね。監督が当初用意されていた脚本では、もっとシーブックとセシリーが主体の話だったんですよ。だけど少年誌での連載であることから、この作品から読み始める読者がいることから、今回用の主人公を作ってくださいとお願いして生まれたのがトビアとペルナデッドだったんです。年長の主人公が活躍している間に若い方の主人公が成長を重ねて後半ついにガンダムに乗り込む！という構図も、ストーリーに起伏をつけるのに使えるんじゃないかと思っていました」

また富野監督から「光モノ（射撃戦）じゃないアクションを」という提案を受けて、さまざまなギミック案を提出したのも長谷川氏だ。長谷川氏から提出された多彩なアイデアには「これほどのものが出てくるとは正直思わなかったね」と富野監督も驚いたという。こうして富野監督による確かなプロップに熱い息吹が吹き込まれ生き生きとした活劇に仕上がった本作は、大いに盛り上がりを見せ単行本全6巻にて無事完結した。しかしその後もその人気は衰えず、ガンダム関連ゲームへの出演や続編の連載開始など、現在も新しい展開が続いている。今回のプラモデル化もこうした動きの一環として実現したのだ。また「クロスボーンガンダム」は劇場作品『機動戦士ガンダムF91』直後の時代を舞台とした作品としても注目度が高い。「F91」の主人公シーブックがキングドゥと名を変えてX1に乗り込んでいるなど、共通する勢力や人物が登場している。そのX1もF91の直接の後継機である「F97」として開発された機体として設定されており、MGシリーズでF91がリリースされた直後でのX1のリリースは、作品世界と同調する心憎いタイミングだったと言えるだろう。F91のMGモデルでは15m級MSの表現としてポリキャップを用いない新たなABS製フレームが考案されたが、X1はこの機構を採用した第2弾アイテムとなっている。元のデザインに参画していることもあり、X1のプラモデルはMGシリーズの中でもカトキハジメ完全監修によって世に送り出されるデザイナーズブランド「Ver.Ka」としてリリースされるこ

ととなった。連載開始当時のデザイン作業の経緯についてカトキ氏は語る

カトキ「まず長谷川さんのデザインのラフスケッチを拝見しました、私の作業としては背中のバインダーにクロスボーン（交差した骨）の形とシェルフノズルっぽさを盛り込んだり、コアファイター関連、武器の海賊っぽいギミックデザインなどです。当時は「F91」以降、MSが15m級に小型化されたという設定が出始めた時代で、これをデザイン面で消化するために腐心した覚えがあります。F91から発展し、Vガンダムにつながってゆく曲線主体のラインなどがそうですね。Ver.Kaとしては前々回のウイングガンダムで曲線主体のデザインに取り組んでいるので、今回のX1もそれを踏まえての開発となりました」

また長谷川氏による大胆なギミック案を、そのインパクトは残しながらも宇宙世紀の世界観から逸脱しないようにデザイン面で整えたのもカトキ氏だ。今回のMGモデルでも、ブランド・マーカークア・ファイターの分離など小型のボディに多彩なギミックがこれでもかと詰め込まれている。ABCマントやスクリー・ウェブなど多彩なオプションも素材を使い分けて再現。非映像化作品のMSが、これほど充実した内容で新規MGとして開発されるのは画期的と言える。人気コミックが持つ熱量が実現させたこのアイテムは、今後のMGシリーズの可能性をさらに拓いてみせたと言えるだろう。

劇中での「クロスボーンガンダムX1」の活躍

当初、劇中のクロスボーンガンダムX1には、劇場作品『機動戦士ガンダムF91』の主人公シーブックが、キングドゥと名を変えて搭乗。海賊軍として行動するクロスボーンパングードのエースとして活躍する。その後、制式採用されたF91とのガンダム同士の戦闘なども描かれ、ファンを喜ばせた。また、このX1をベースとするバリエーション機ものちに登場する。



クロスボーンガンダムのバリエーション



↑ダークカラーで彩られたクロスボーンガンダム2号機（X2）は、ザビーネ・シャルが搭乗した。



↑両腕にフィールド発生器を装備した3号機（X3）には、物語の主人公であるトビアが搭乗。

CROSS BONE GUNDAM Ver.Ka



トピアに譲られ、改良された[X1改・改]に取り付けられている胸部用スカルレリーフも付属。
戦闘によって過熱した機体の冷却を行うフェイスオープン。劇中イメージどおり口を開くようなギミックで再現している。



脚部の内部フレームは、「F91」からの発展型であることを感じさせるデザイン。

ABCマント

ABCマントとはクロスボーンガンダムの特別装備で、アンチ・ビーム・コーティング(Anti Beam Coating)=耐ビームコートが施された特殊防具のことである。ビームが当たると表面が蒸発することで被弾を防ぐ構造となっているほか、敵から身を隠すのにも役立つ。キットではナイロン素材を用いたABCマントが付属している。
※撮影に使用しているマントは、のりを使ってしわ等を表現しています。

コア・ファイター

木星圏での高い重力に対応するために採用されたのが、大型スラスター自体を可変させることで高機動を実現するシステムだった。クロスボーンガンダムのコア・ファイターは、このメインスラスターが可動するシステムを採用しつつ、パイロットの生存性を高める機能を果たしている。また、スラスターがX型に展開することによって、戦闘時の高機動を実現し、収束させると高速移動が可能となる構造となっているのだ。



メインスラスターを折り畳み、推進力を後方に集中させた、コア・ファイターの高速移動形態。

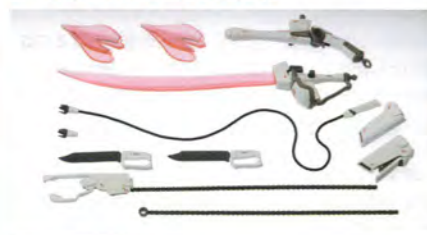


クロスボーンガンダム本体への合体ギミックに加え、メインスラスターの可動を再現。コクピットの両脇には、コア・ファイター時のメインウエポンで、本体に接続した際の固定武装としても機能する小型ビーム・サーベルが配置されている。

カトキ氏によるコア・ファイターのデザイン画。メインスラスター可動基盤は、ギミックを最大限に生かす形でのデザインが施されている。

多彩なウエポン

クロスボーンガンダムの特徴のひとつは多彩な武装。“海賊”というキーワードをもとにデザインされ、各部に隠し武器的に搭載された武装は、ボディと一体化する形で再現されている。



ザンバスター



ビーム・ライフル形状から、近接戦用のビーム・ザンパーとバスターガンに分離可能なマルチプルウエポン。



スクリュー・ウェップ

改良機であるX1改からリアアーマーに追加されたムチ状の武器。先端に取り付けられたドリルが回転し敵を破砕する。



ブランド・マーカ

腕部のビーム発生器のビームを近距離攻撃用に収束させた武装。展開してビーム・シールドとして使用できる。



シザー・アンカー

フロントアーマーを兼ねた隠し武器。射出して敵機の捕縛、機体の固定、武器をつかむなど、隠し脱的に使用される。



ヒート・ダガー

脚部に収納されたナイフは、スラスターの余熱によって加熱することで攻撃力を高めている。引き抜いて近接戦闘に用いる以外に、足裏から突き出させて攻撃することも可能。

「機動戦士クロスボーンガンダム」

「機動戦士クロスボーンガンダム」は、『月刊少年エース』(角川書店刊)にて94年12月号から97年3月号まで連載された作品で、カトキ氏はメカデザインとして参加し、クロスボーンガンダム誕生に貢献している。現在、コミックス全6巻に加え、外伝「〜スカルハート」(全1巻)が発売。さらに2006年より『月刊ガンダムエース』誌上で続編となる「〜鋼鉄の7人」が連載。



富野由悠季 長谷川裕一



カトキ氏が描いたクロスボーンガンダムの初期デザイン。頭部などが決定稿と異なる。



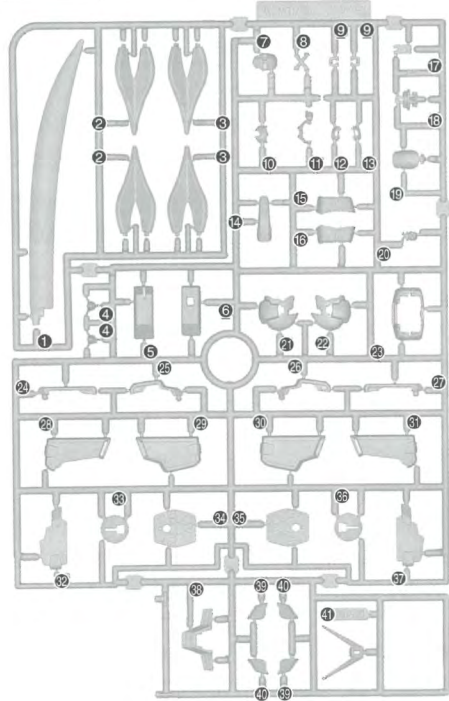
ザンバスターは、海賊の使用するサーベルや拳銃の意匠を取り入れている。

海賊をモチーフにした意匠が多く取り入れられることで、今までのガンダムとは違った存在感が表現された。

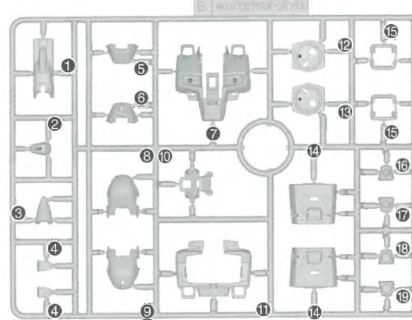
パーツリスト

(×印は使用しないパーツです。)

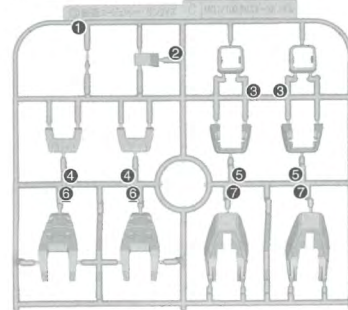
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



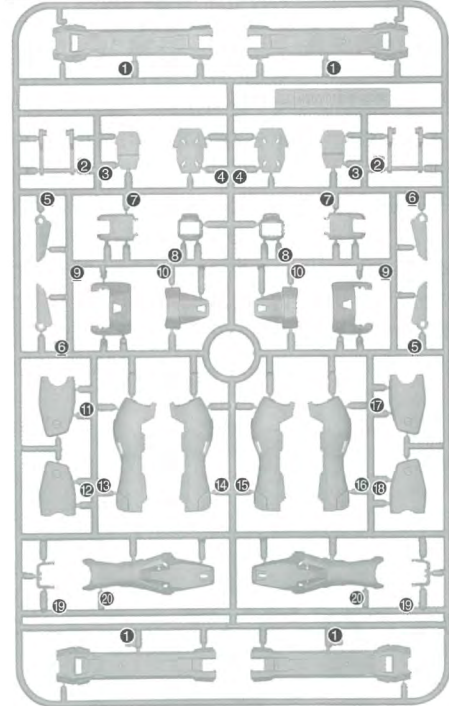
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



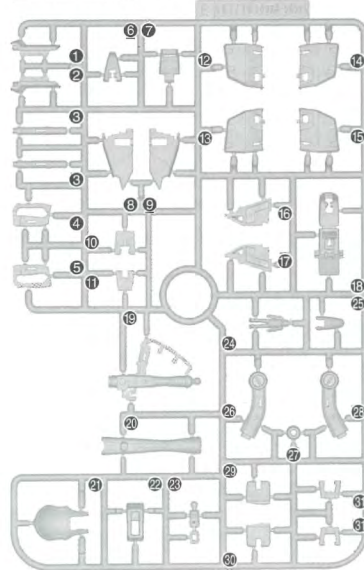
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



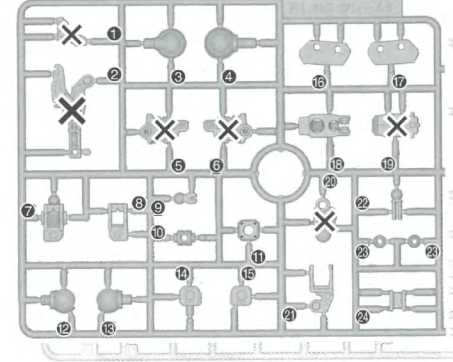
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



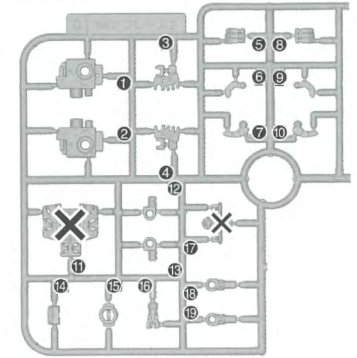
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



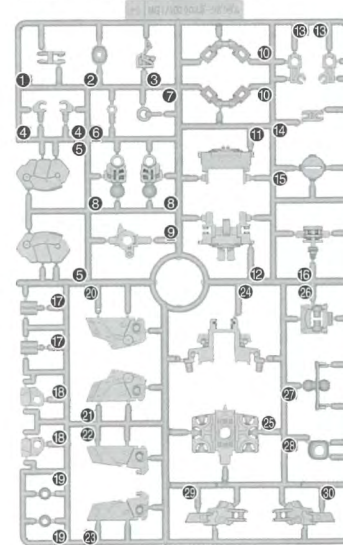
Fパーツ (×2)
(ABS樹脂: ABS)



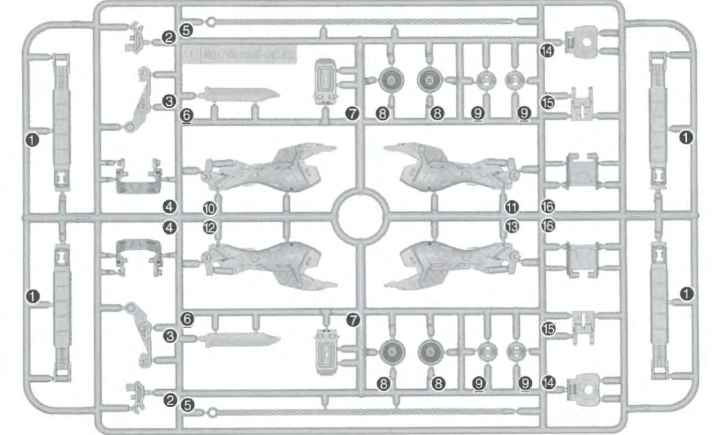
Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



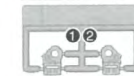
Hパーツ (ABS樹脂: ABS)



Iパーツ (ABS樹脂: ABS)



Jパーツ (ABS樹脂: ABS)



SB1パーツ (スチロール樹脂: PS)



- カラーシール……………1枚
- マーキングシール……………1枚
- ガンダムデカール……………1枚
- リード線……………1本
(塩化ビニル樹脂: PVC)
- マント……………1枚
(ナイロン樹脂: PA)
- 両面テープ……………1枚

注意

お買い上げのお客様へ必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様がかんで飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

（組み立てる時の注意）

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い線端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

・線をなぞるところ	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ピースの縁めすぎに注意
・切り取る場所	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

1 BODY

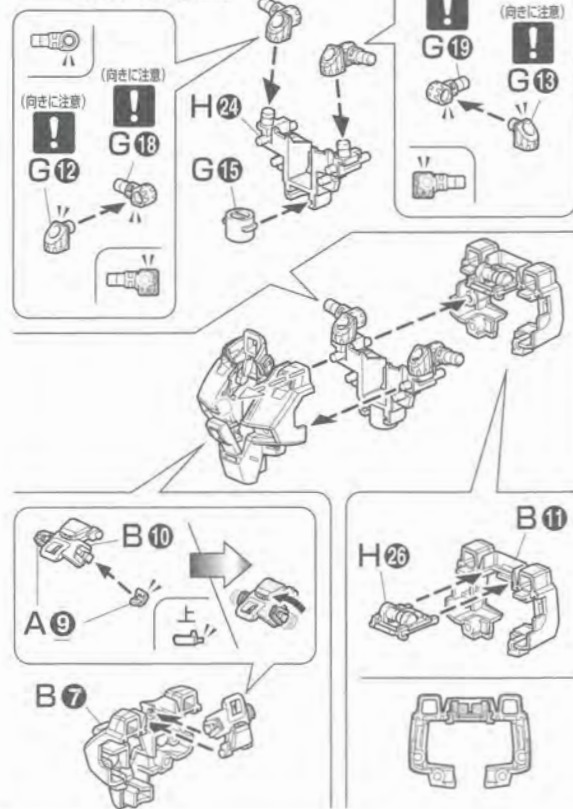


CROSS BONE GUNDAM X1 (Ver.Ka)
Gundam Models Designed and Produced by Ka



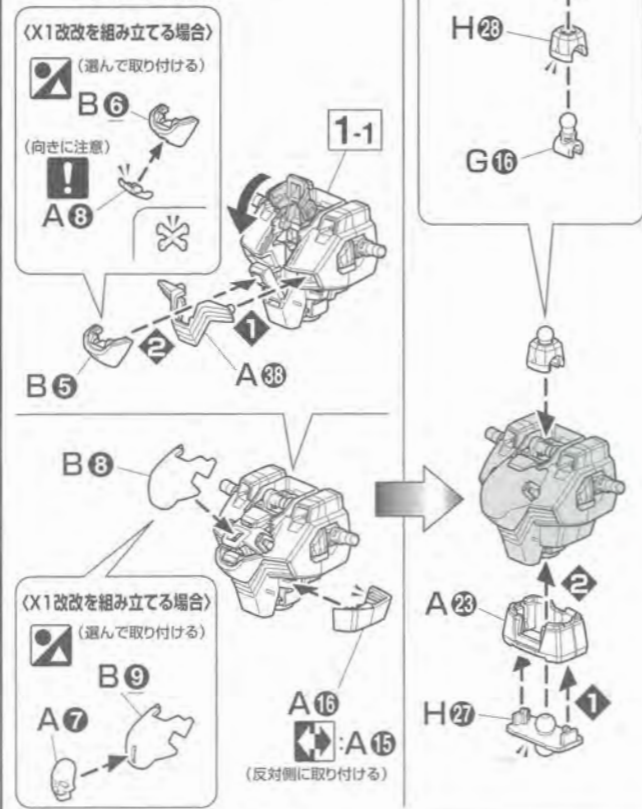
1-1 BODY

【ボディの組立】



1-2 COMPLETION

【ボディの完成】



2 HEAD

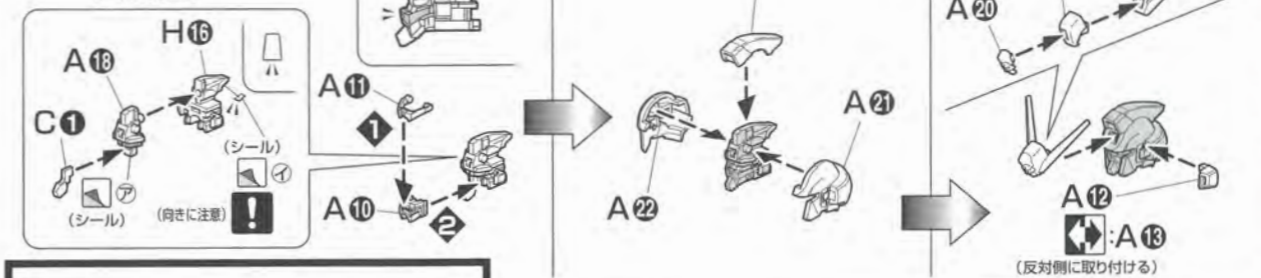


CROSS BONE GUNDAM X1 (Ver.Ka)
Gundam Models Designed and Produced by Ka



2-1 HEAD

【頭の組立】



3 RIGHT ARM



4 LEFT ARM

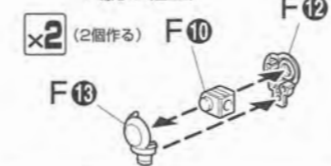


CROSS BONE GUNDAM X1 (Ver.Ka)
Gundam Models Designed and Produced by Ka

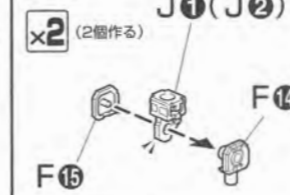


3-1 ARM

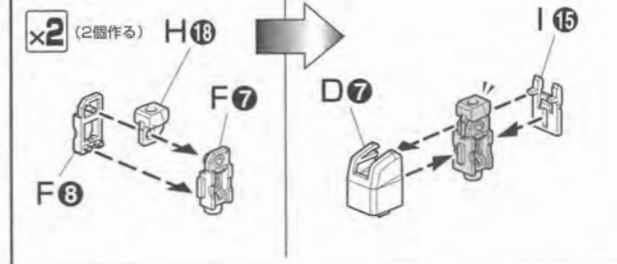
【腕の組立】



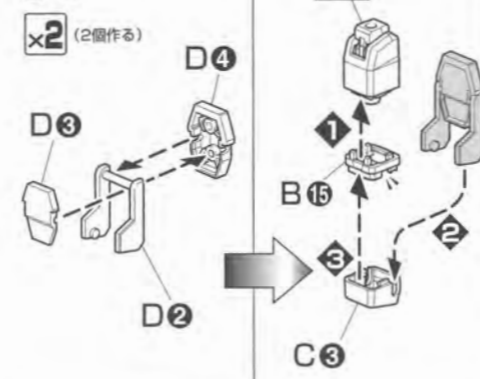
3-2



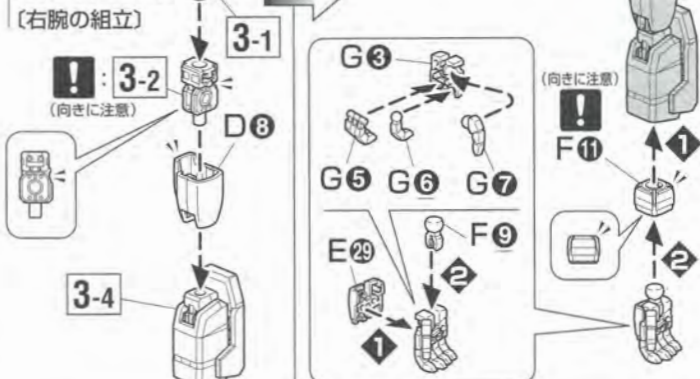
3-3



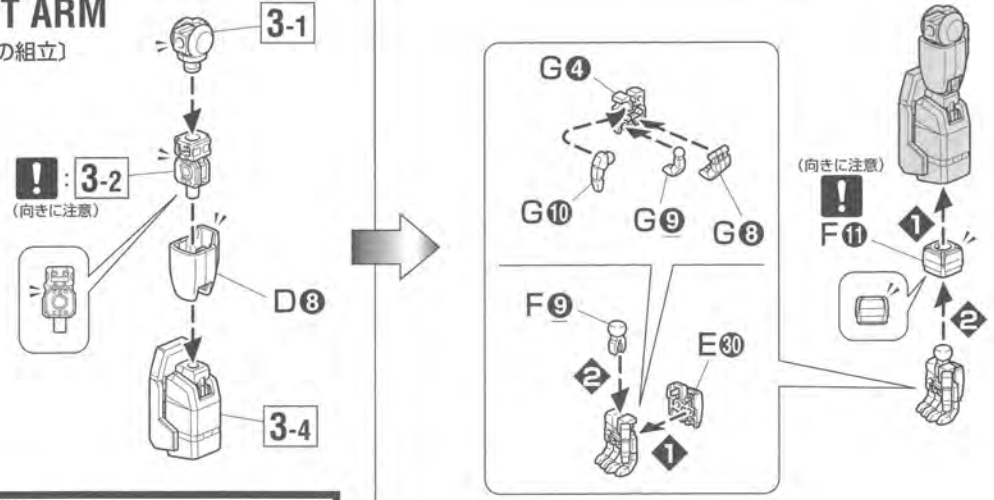
3-4



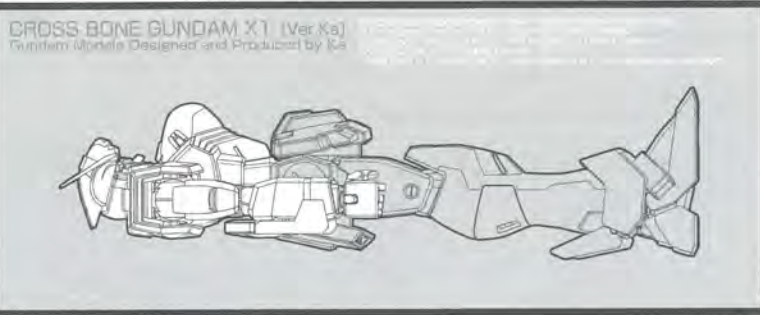
3-5 RIGHT ARM



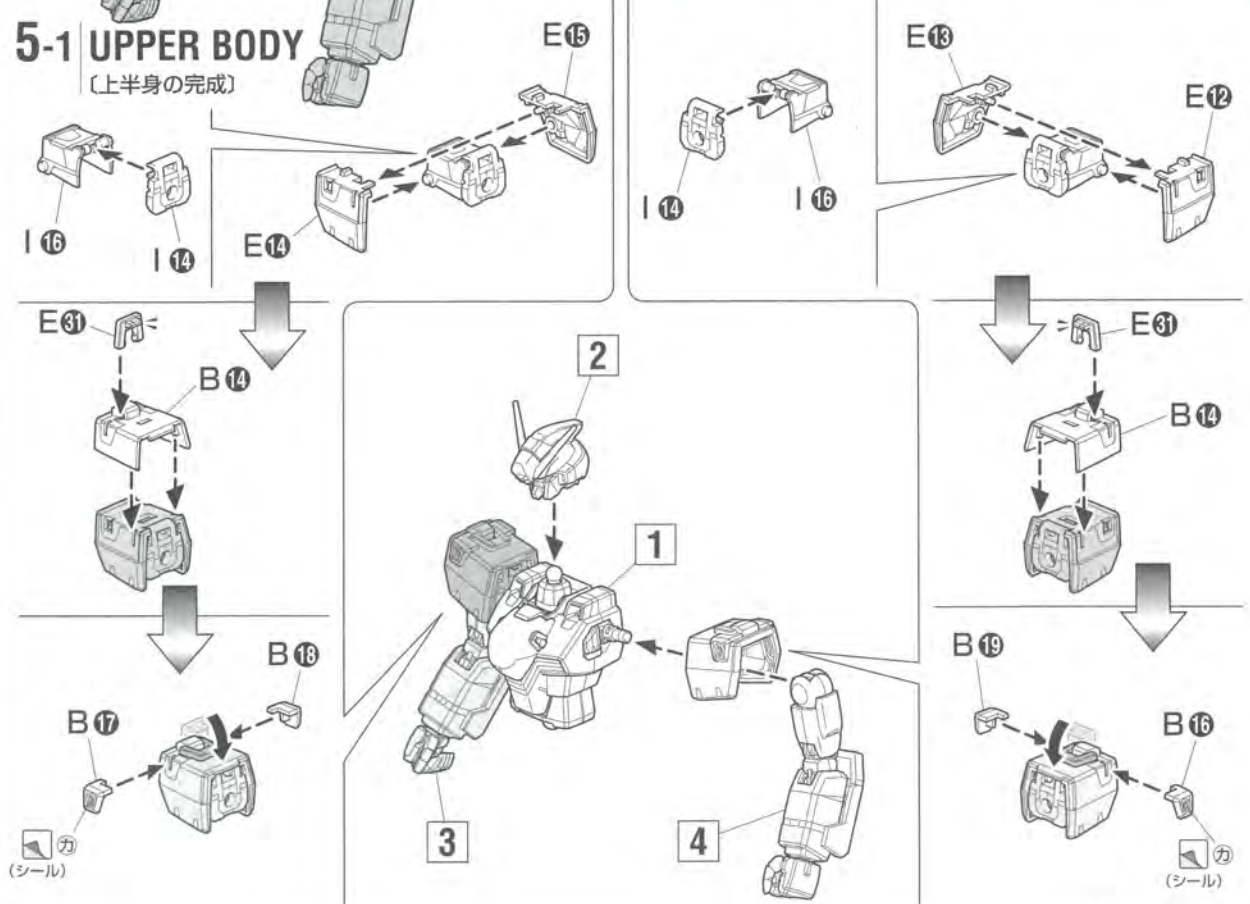
4-1 LEFT ARM (左腕の組立)



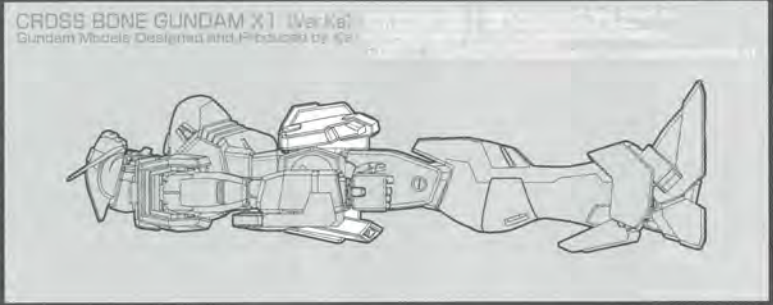
5 UPPER BODY



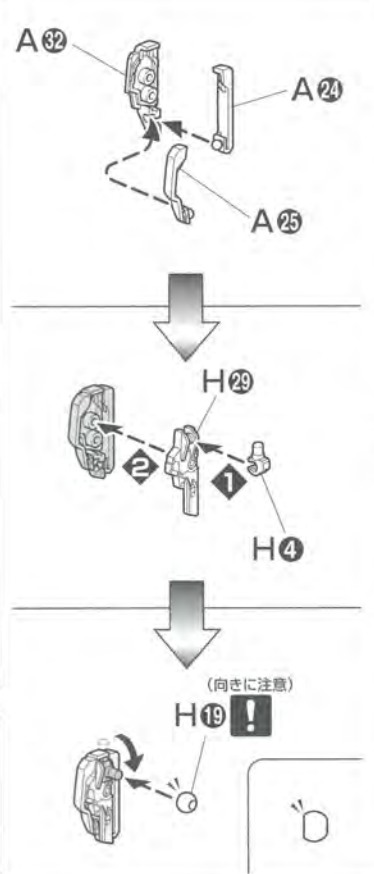
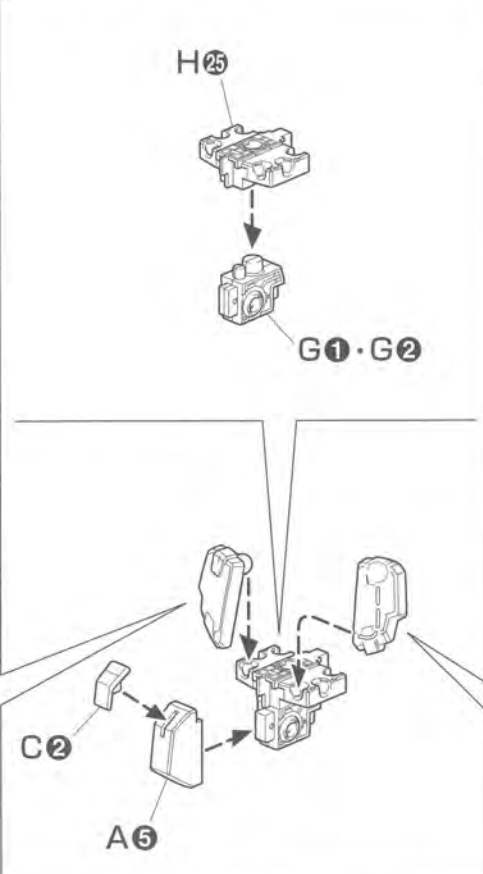
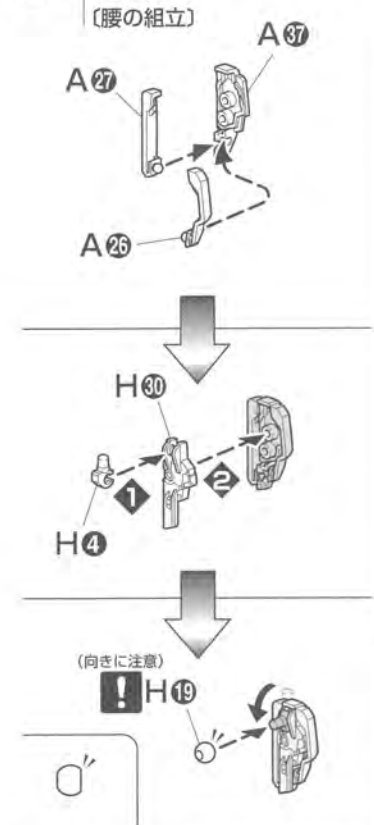
5-1 UPPER BODY (上半身の完成)



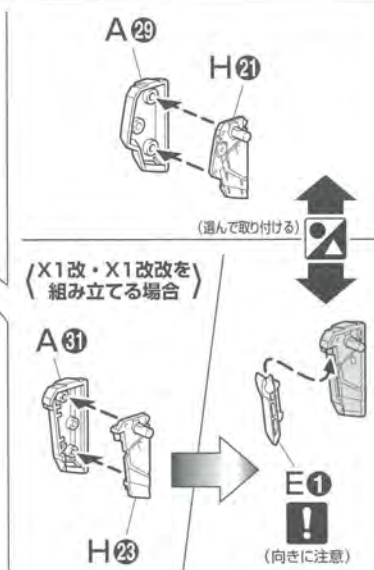
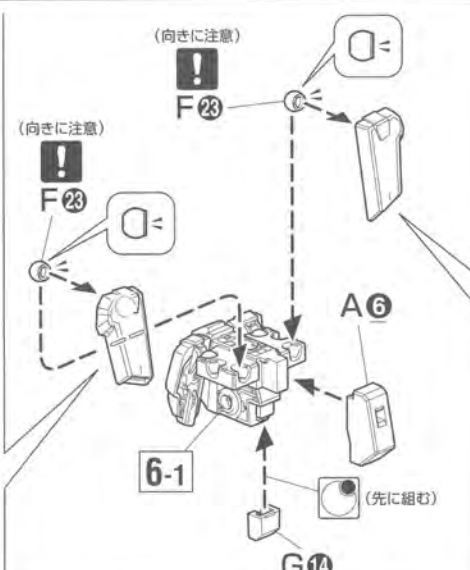
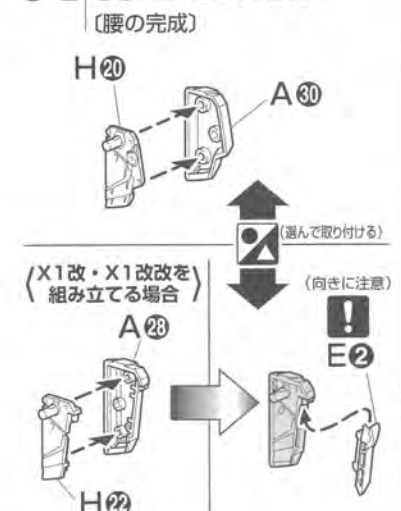
6 WAIST



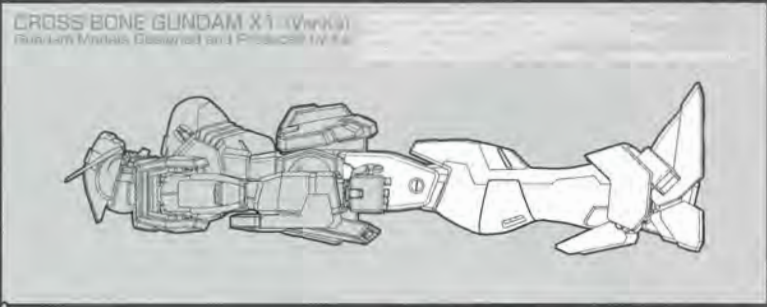
6-1 WAIST (腰の組立)



6-2 COMPLETION (腰の完成)



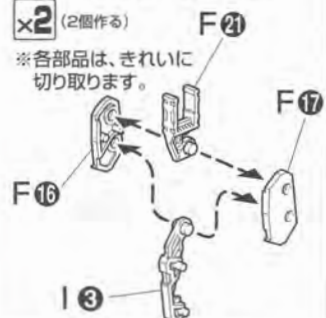
7 RIGHT LEG 8 LEFT LEG



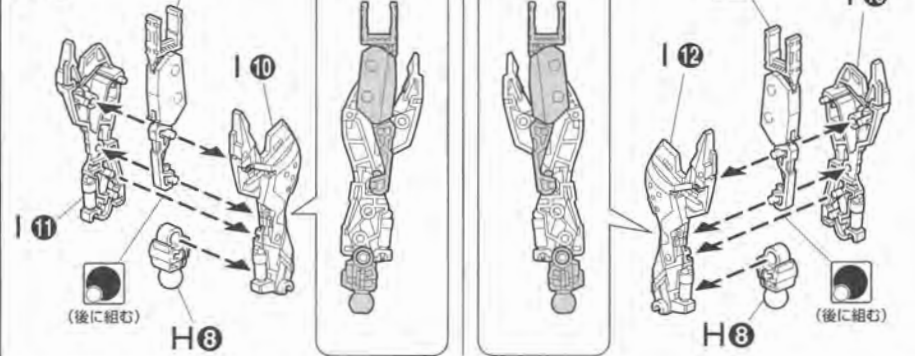
7-1 ANKLE
 (足首の組立)



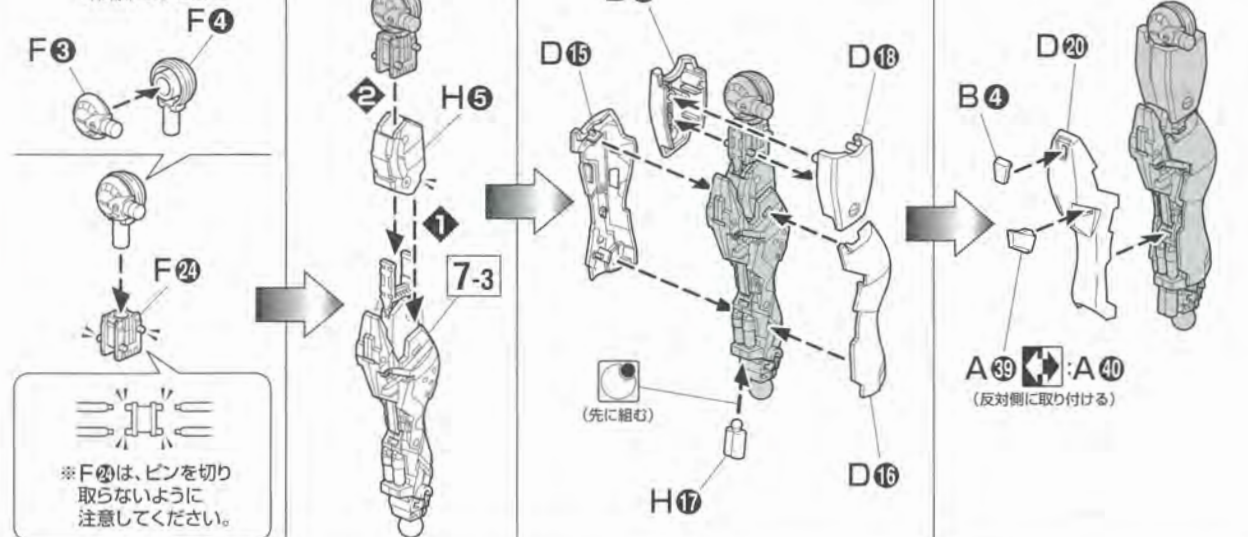
7-2 LEG FRAME
 (脚フレームの組立)



7-3

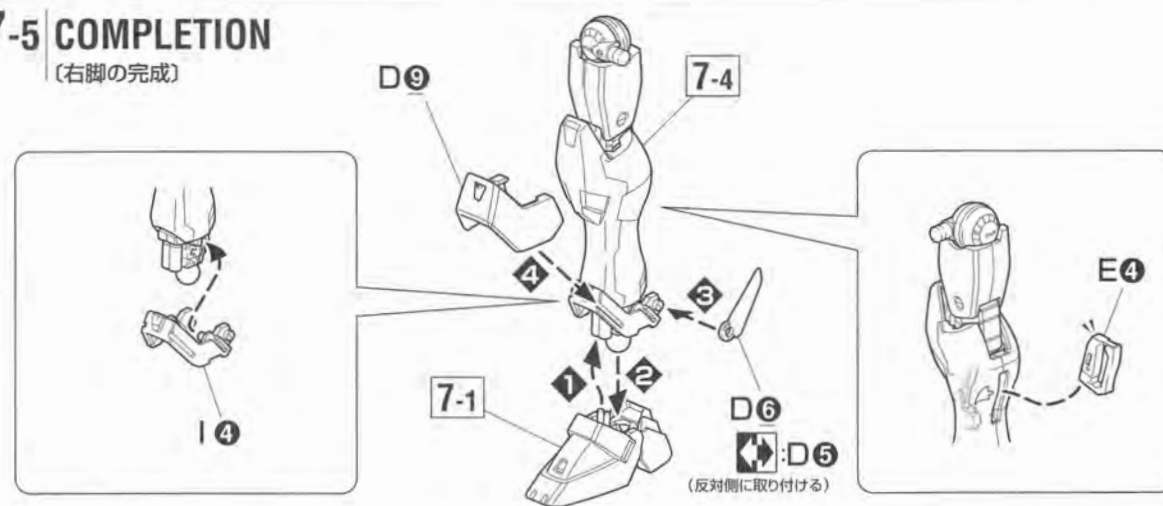


7-4 RIGHT LEG
 (右脚の組立)



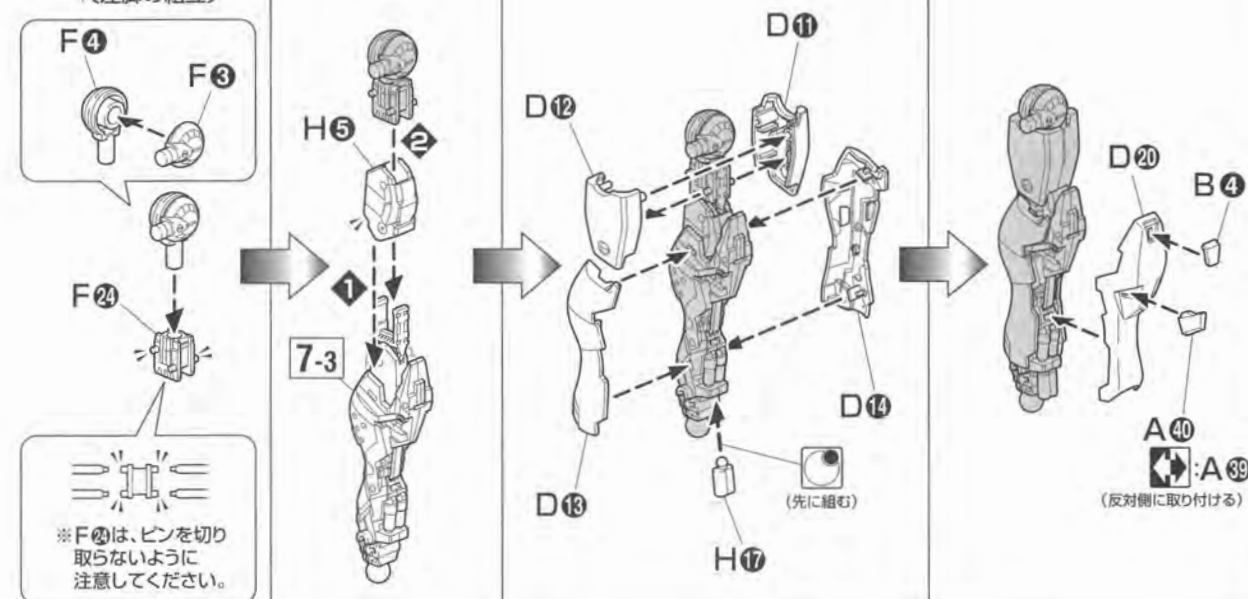
7-5 COMPLETION

(右脚の完成)



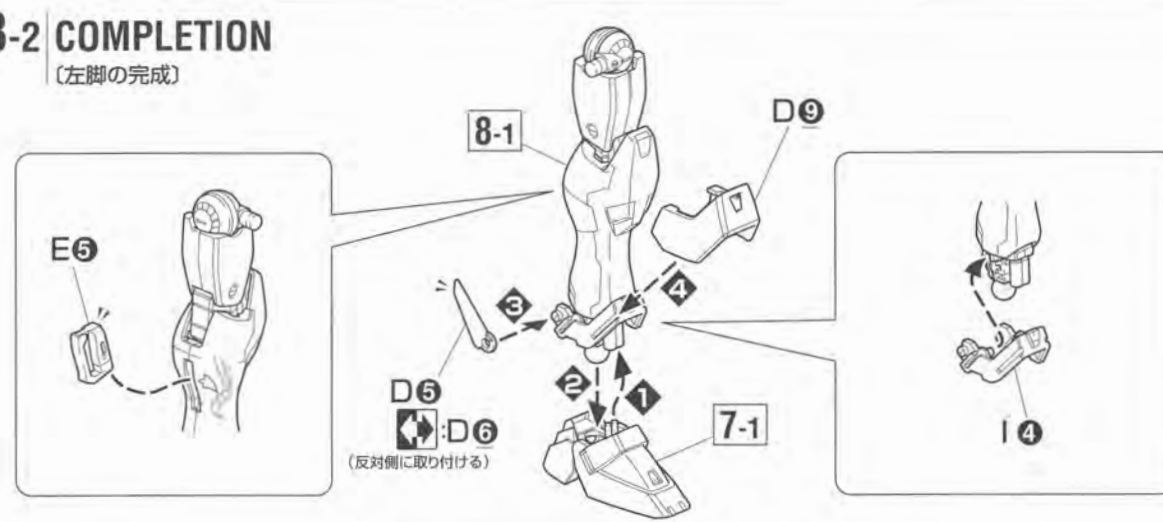
8-1 LEFT LEG

(左脚の組立)



8-2 COMPLETION

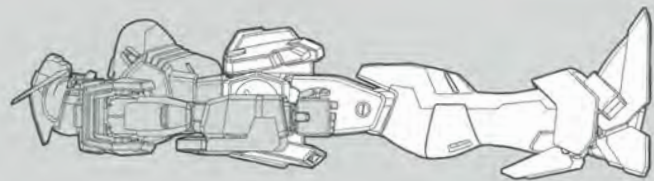
(左脚の完成)



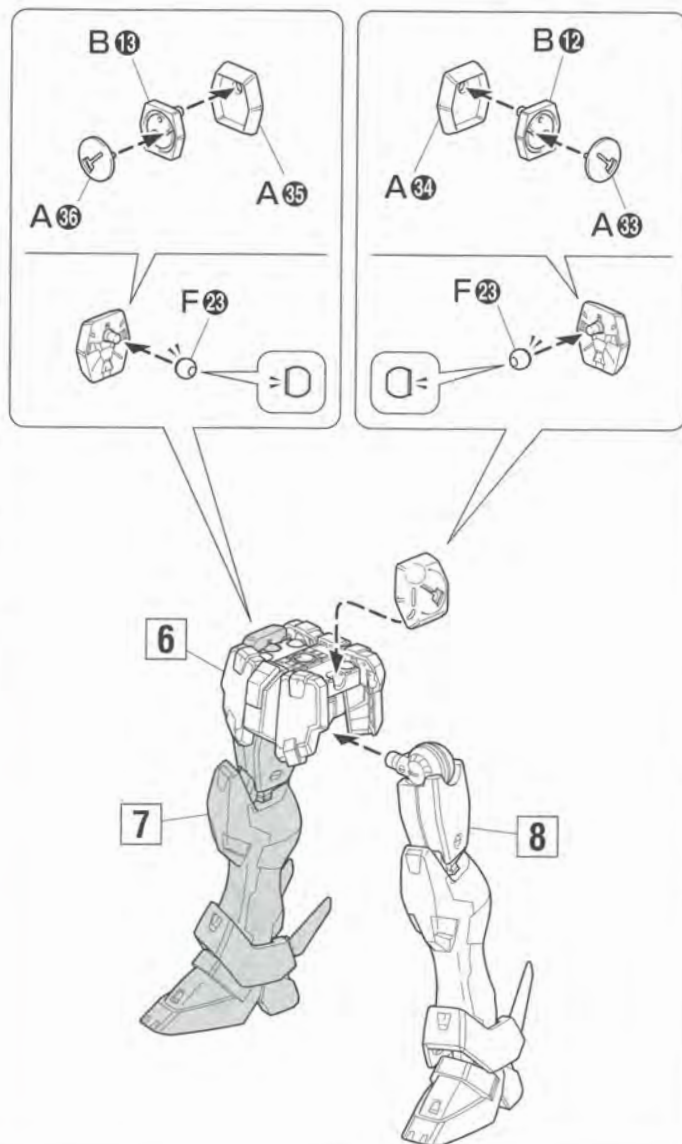
9 BOTTOM



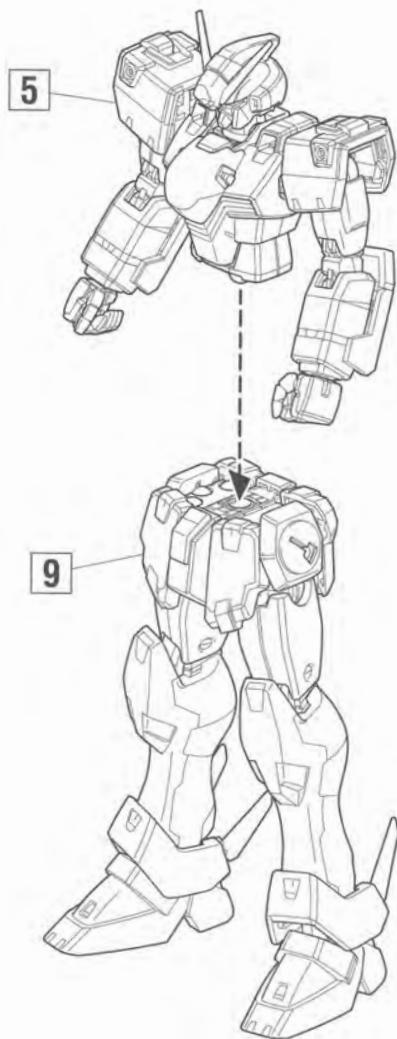
CROSS BONE GUNDAM XT (Ver.Ka)
 Gundam Models Designed and Produced by K&A



9-1 BOTTOM (下半身の組立)

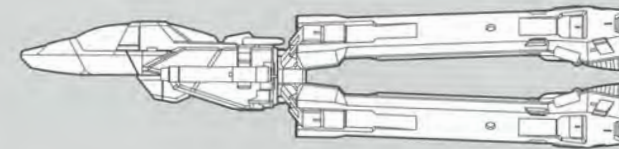
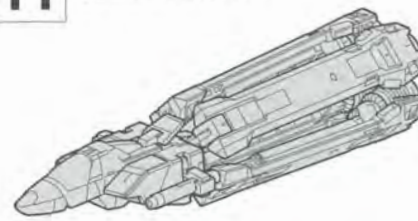


10 BODY ASSEMBLE

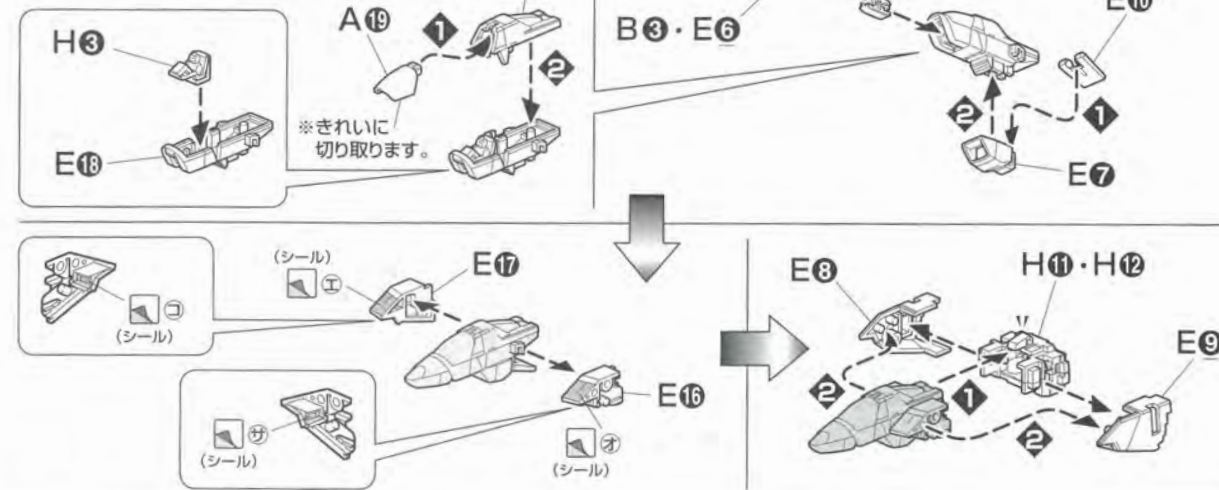


11 CORE FIGHTER

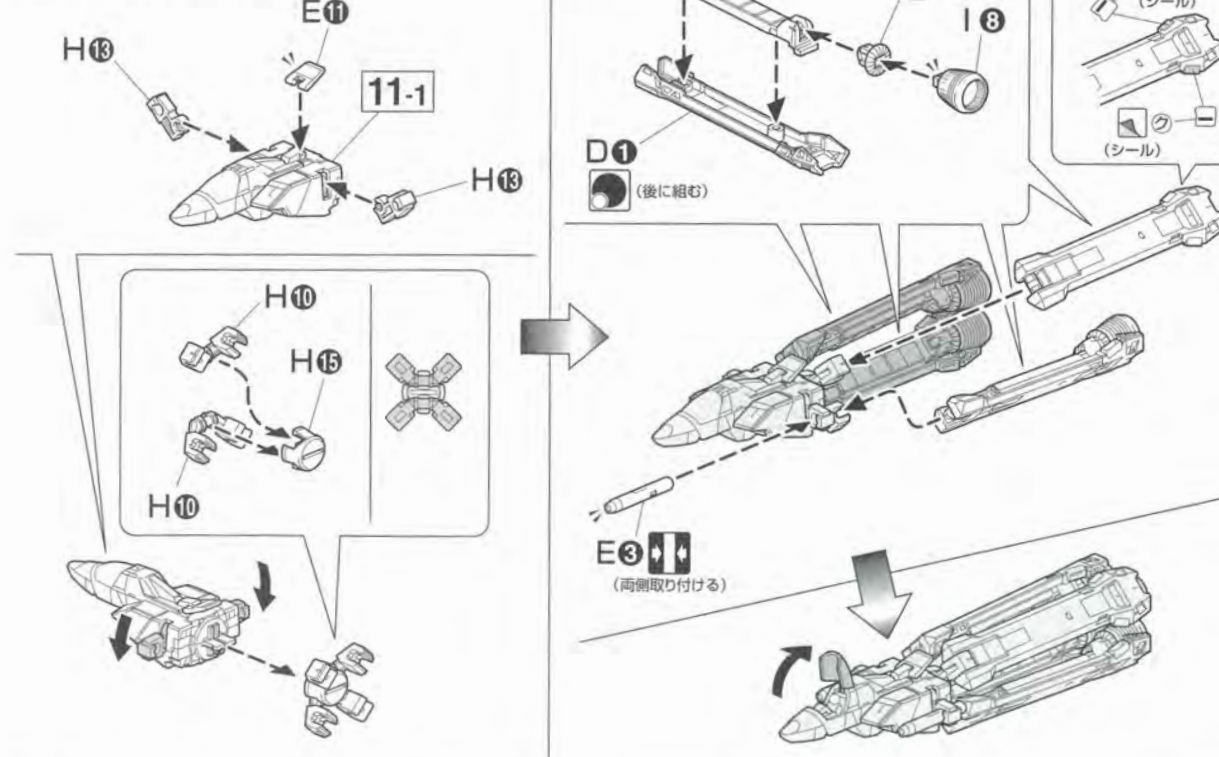
CROSS BONE GUNDAM X1 (Ver.Ka)
 Gundam Models Designed and Produced by K&A



11-1 CORE FIGHTER (コア・ファイターの組立)

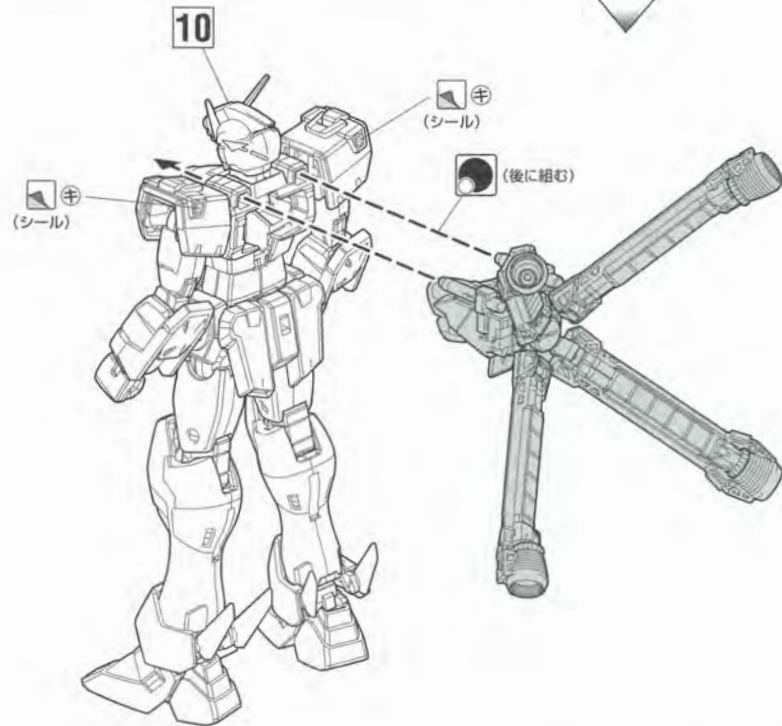
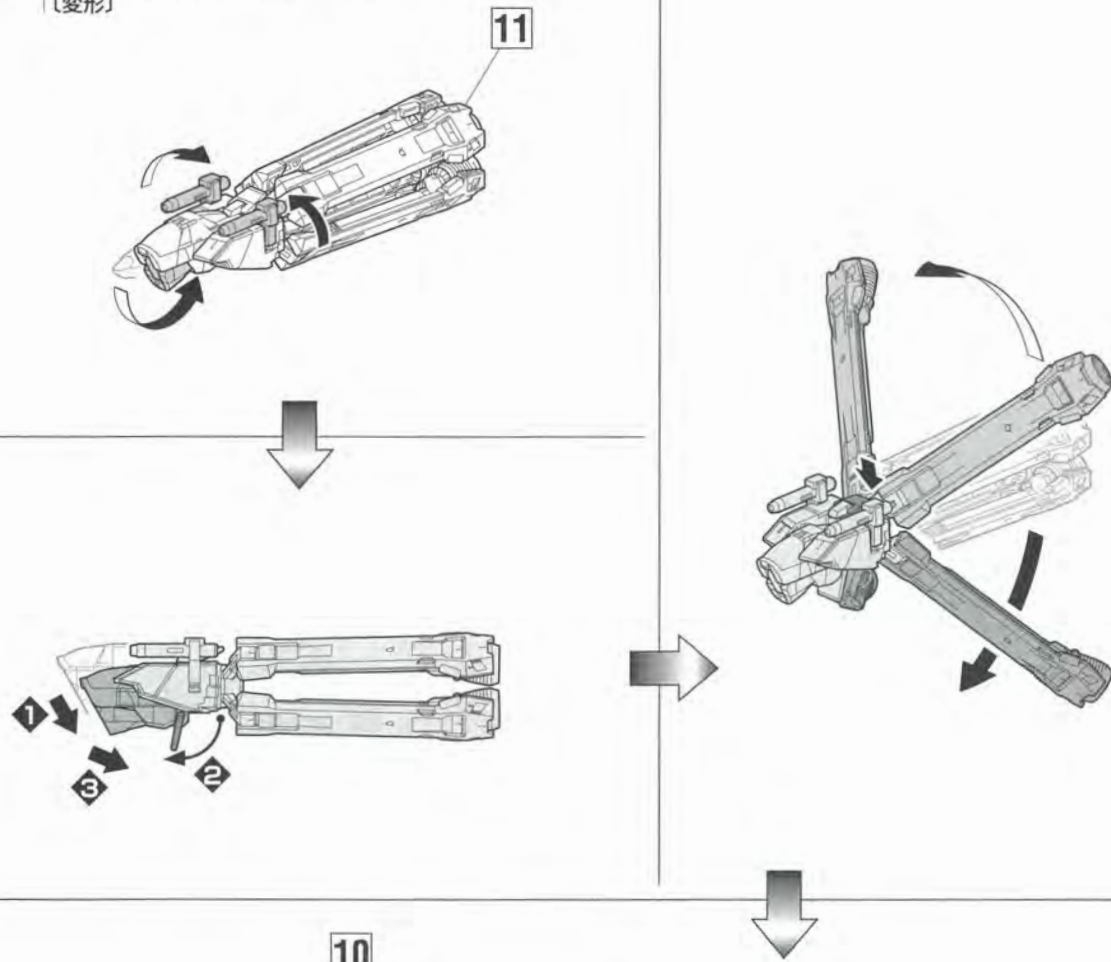


11-2 COMPLETION (コア・ファイターの完成)



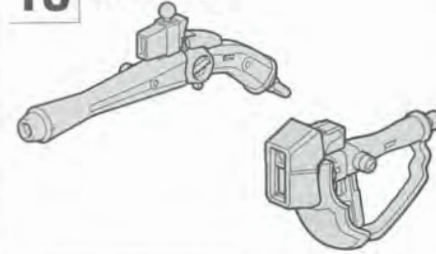
12-1 TRANSFORMATION

[変形]



※ E20 は好みの場所に飾ってください。

13 WEAPONS

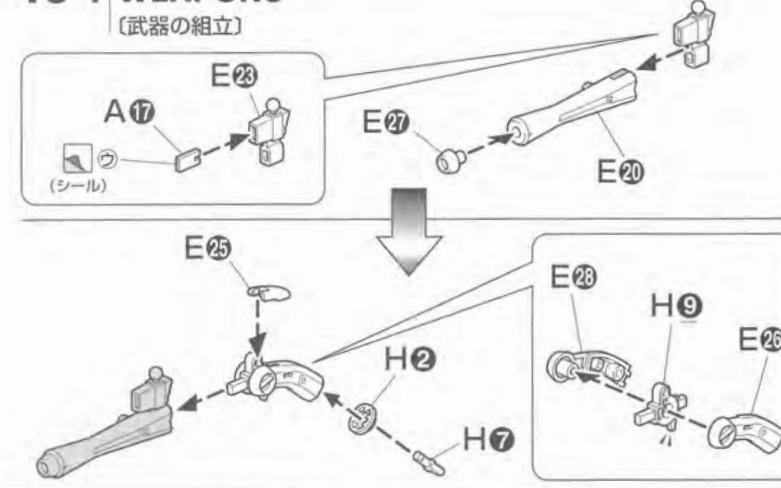


CROSS BONE GUNDAM X-1 (Ver.Ka)
Gundam Model Designed and Produced by Kai



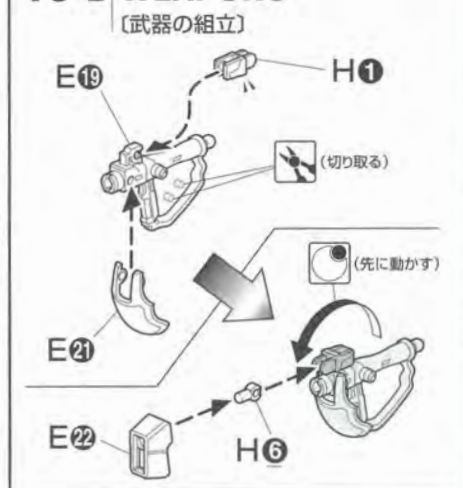
13-1 WEAPONS

[武器の組立]



13-2 WEAPONS

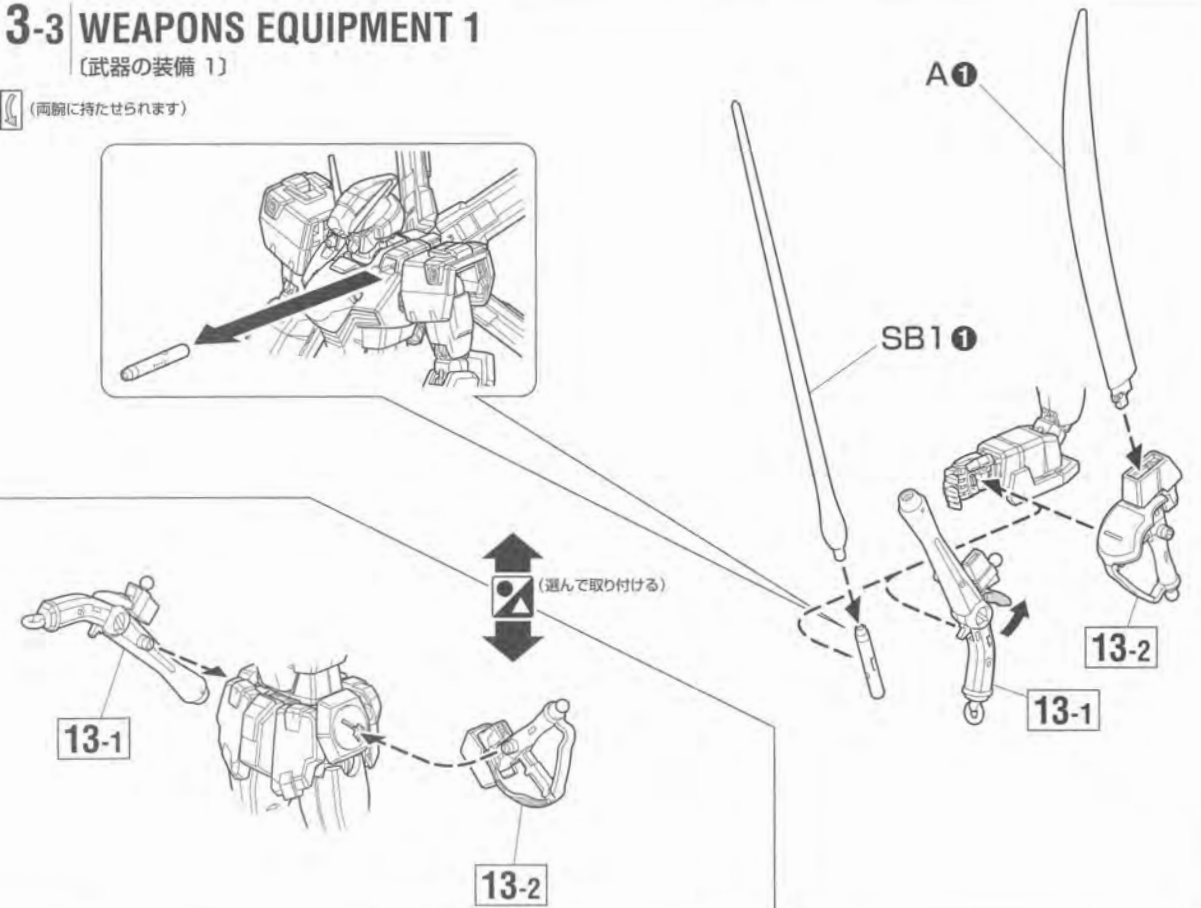
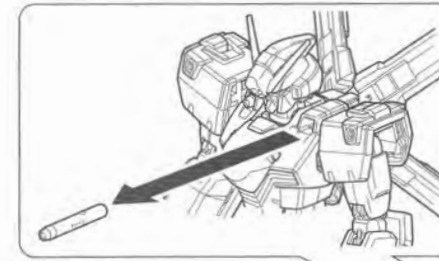
[武器の組立]



13-3 WEAPONS EQUIPMENT 1

[武器の装備 1]

(両腕に持たせられます)

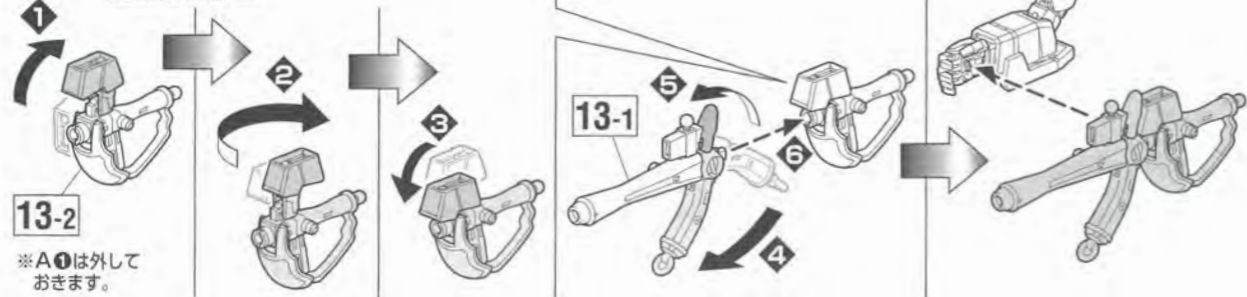


WEAPONS TRANSFORMATION CORE FIGHTER BODY ASSEMBLY BOTTOM LEGS WAIST UPPER BODY ARMS HEAD BODY PARTS LIST

PARTS LIST BODY HEAD ARMS UPPER BODY WAIST LEGS BOTTOM BODY ASSEMBLY CORE FIGHTER TRANSFORMATION WEAPONS

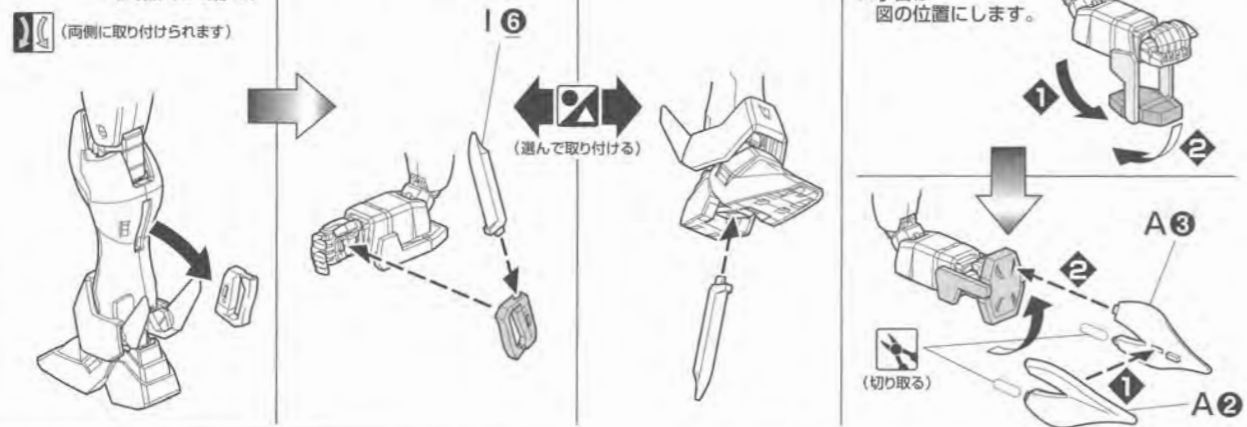
13-4 WEAPONS EQUIPMENT 2

(武器の装備 2)



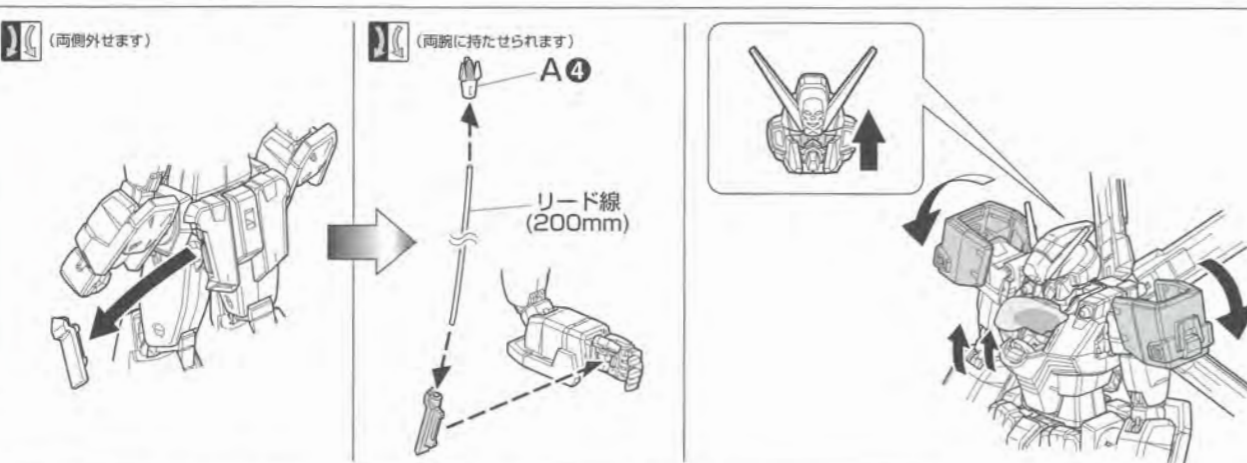
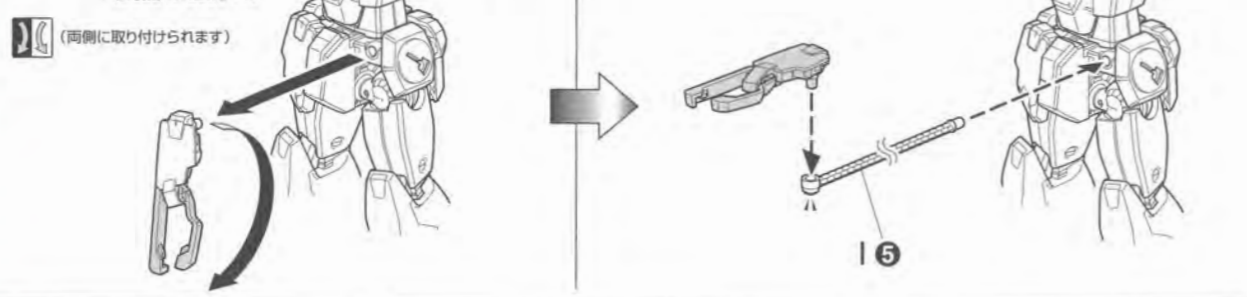
13-5 WEAPONS EQUIPMENT 3

(武器の装備 3)



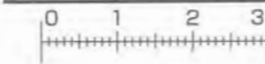
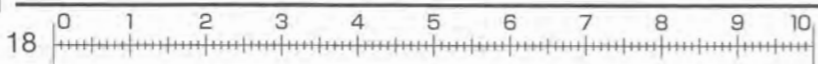
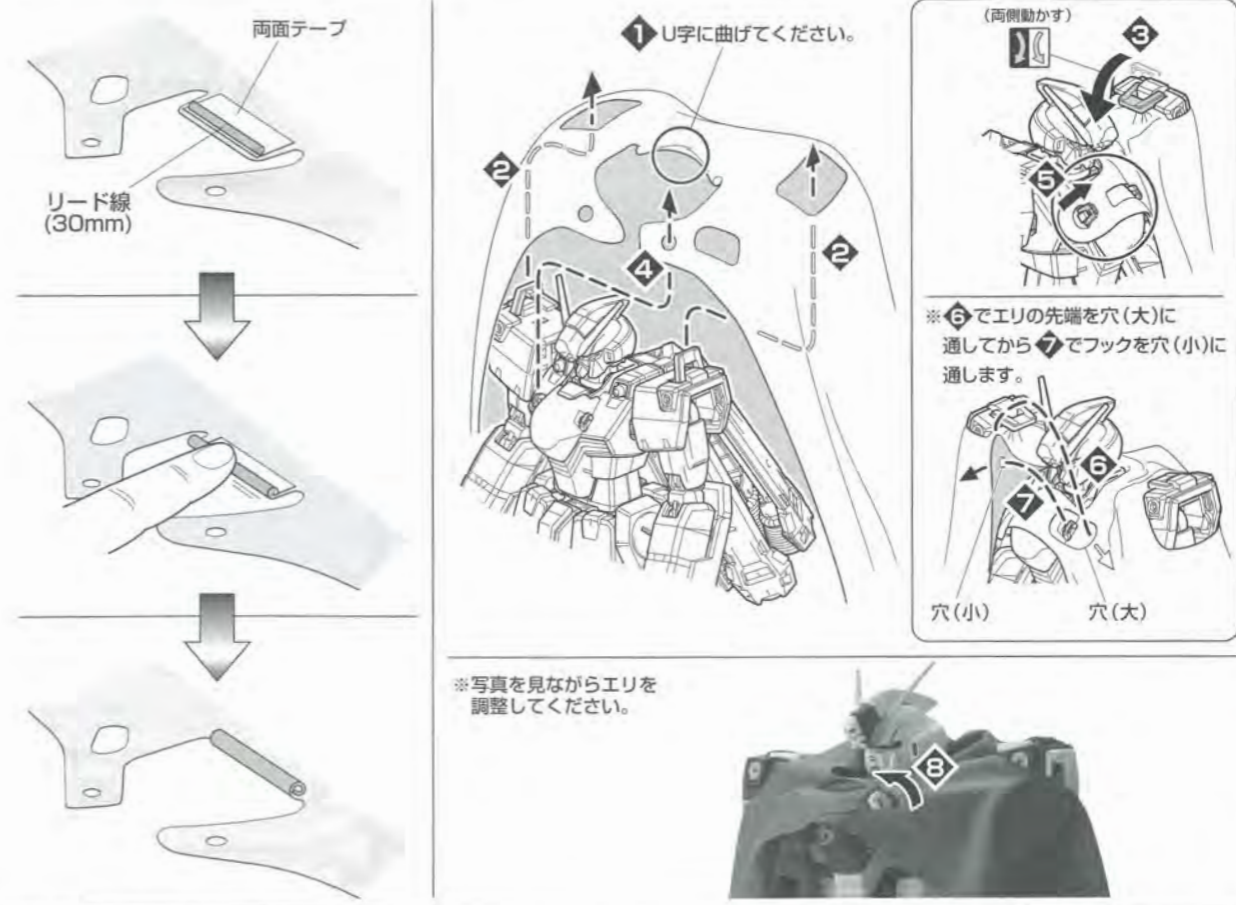
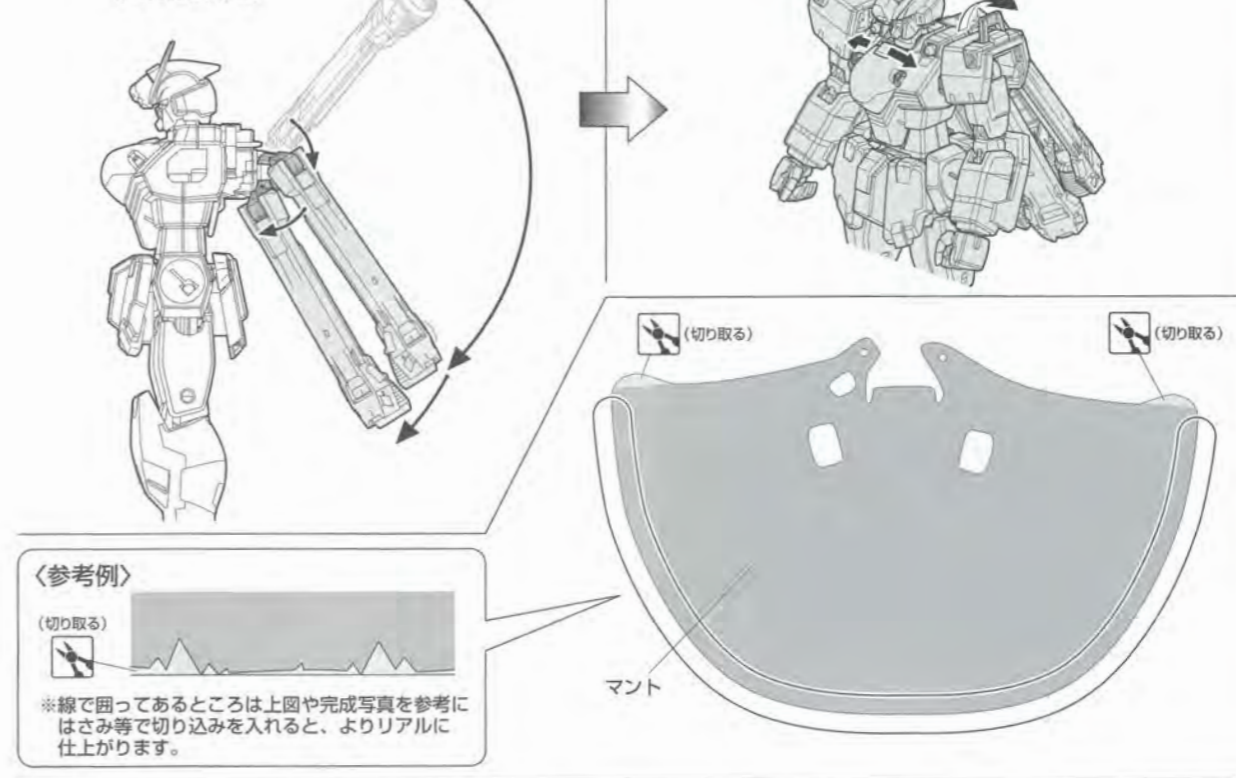
13-6 WEAPONS EQUIPMENT 4

(武器の装備 4)

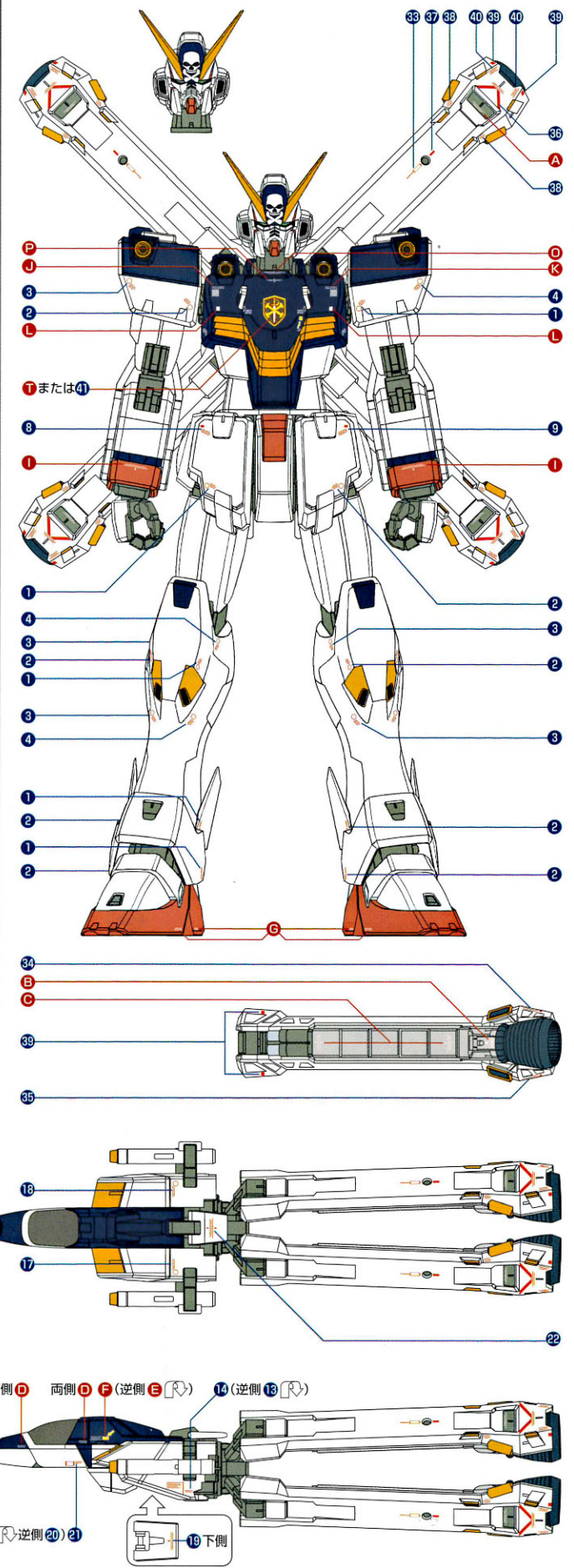


13-7 WEAPONS EQUIPMENT 5

(武器の装備 5)



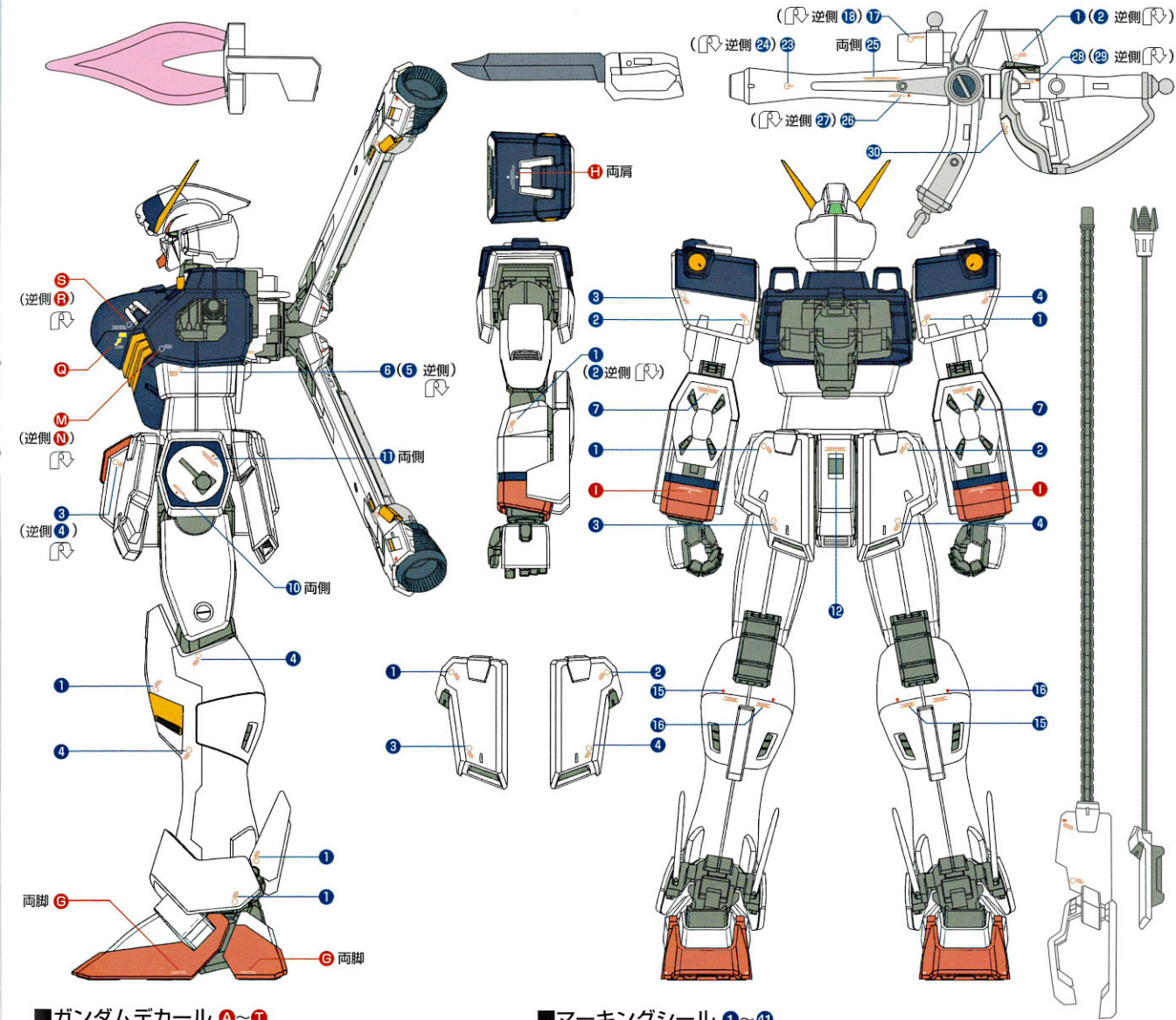
XM-X1 CROSS BONE GUNDAM X1 "Ver.Ka"



COMPLETE DIAGRAM for painting and applying decals

■ガンダムデカールのほりかた
 1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペンなどの先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

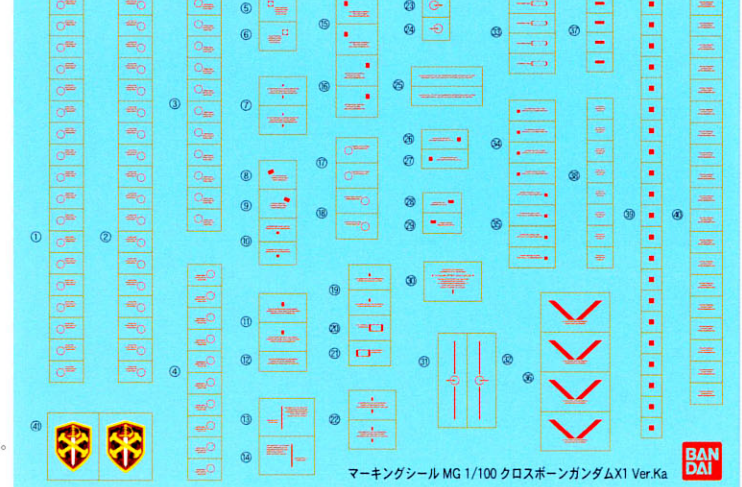
※マーキングシールをさらにきれいに貼りたい場合は、透明な余白をあらかじめカッター等で切り取ってお貼り下さい。
 ※指示の無い部分は、イラストを参考に貼して下さい。



■ガンダムデカール A~T



■マーキングシール 1~41



COLOR CHART used paints and mixture ratio

- ※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
 ※塗装には、より安全な「水性塗料」の使用をおすすめします。
 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーチャートの色は異なる場合があります。
 ※ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。
- 白・ホワイト (100%)
 - 青・キャラクターブルー (45%) + ブラック (35%) + パープル (20%) + ピンク (少々)
 - 赤・レッド (50%) + シャインレッド (35%) + ピンク (15%)
 - 黄・イエロー (95%) + オレンジ (5%) + ピンク (少々)
 - センサー色・スーパークリア (50%) + クリアーグリーン (40%) + クリアーブルー (10%)
 - グレー (関節色)・ニュートラルグレー (60%) + マホガニー (40%)
 - グレー (バンダー・銃)・ニュートラルグレー (45%) + マホガニー (30%) + ホワイト (25%)
 - グレー (シリンダー色)・ニュートラルグレー (40%) + グランプリホワイト (45%) + マホガニー (15%) + ピンク (少々)
 - グレー (ナイフ刃)・ニュートラルグレー (25%) + ネビーブルー (65%) + インディブルー (10%)
 - グレー (ノズル)・ネビーブルー (85%) + ミディアムブルー (15%)